



各委員からの提供資料

- (1)NTT西日本 西委員
NTTグループとしてのスマートシティ推進に向けた取組
- (2)須原オブザーバー
山口大学「持続可能な地域well-being研究推進体」 他
- (3)松田オブザーバー
山口市スマートシティに向けた視点



令和6年12月24日

山口市総合政策部 スマートシティ推進室

NTT西日本山口支店としての取組

<地域脱炭素化に向けた取組>

山口グリーンエネルギー(YGE)様の電力供給開始に向けた取り組みを伴走支援

-中心市街地および周辺における太陽光発電装置の設置検討を支援
(PPA方式でのパネル設置、ソーラーカーポートなど)

-中心商店街エリアの電力使用量データ化・可視化システム(EMS)の導入・展開方針の提案



<県・防長交通との連携し、周南市での自動運転EVバス実証の実施>

山口市スマートシティ推進協議会 交通分科会でも取組状況をご紹介

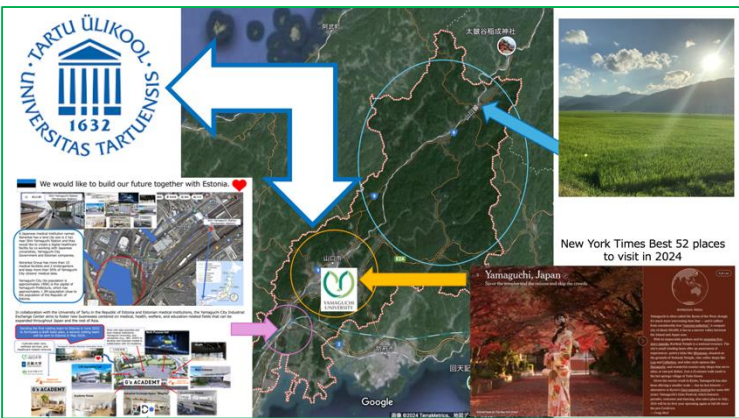
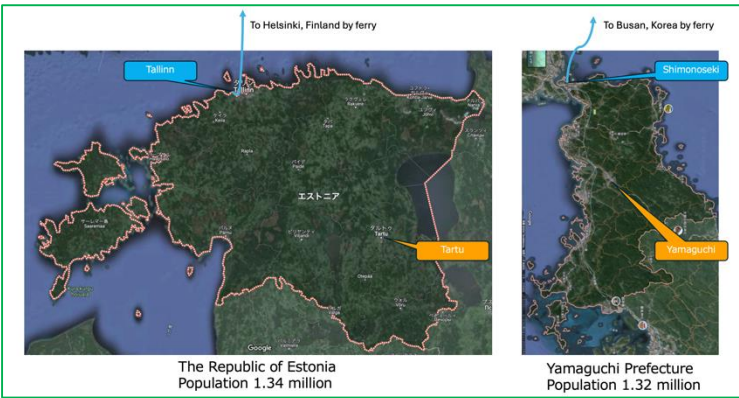
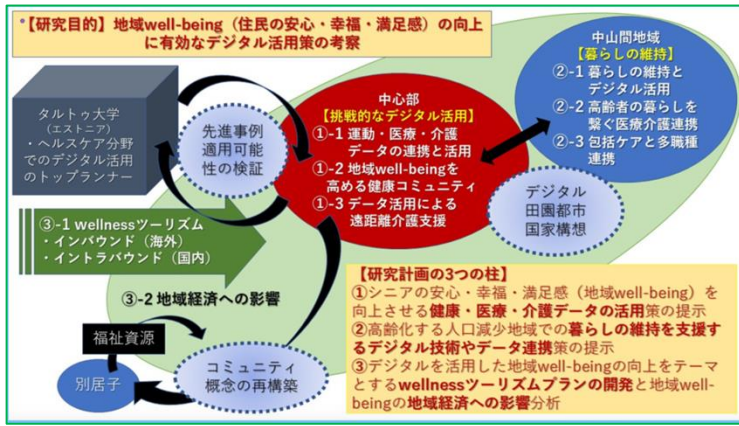
-取得データより手動切替地点や要因、乗車傾向などを分析中

-分析結果を技術面、安全面での改善に活かし、次年度Lv4での実証申請を目指す



周南市自動運転
EVバス実証特設サイト

①山口大学「持続可能な地域well-being研究推進体」



②山口大学代表団
エストニア共和国DX視察
タルトゥ大学学長及び
タルトゥ市副市長等と面談



③エストニア共和国投資庁元
長官レンバー氏来山



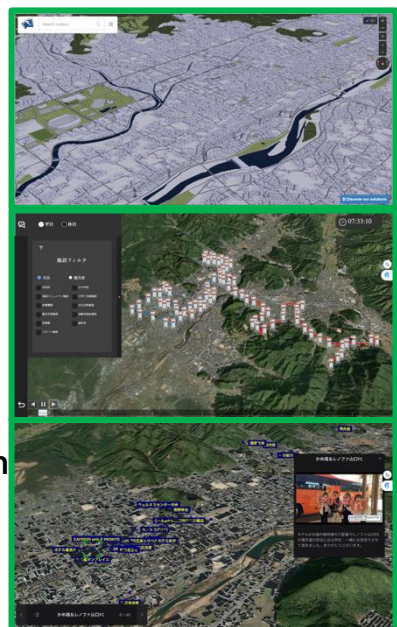
④山口大学・タルトゥ大学
新山口駅小郡未来化Discussion



⑤山口都市核/湯田温泉
温泉パークDX提言・支援



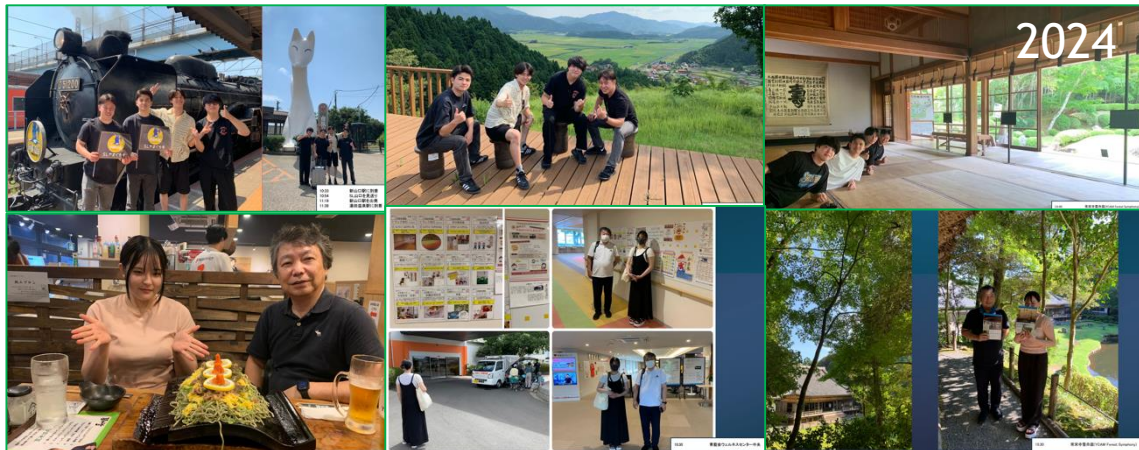
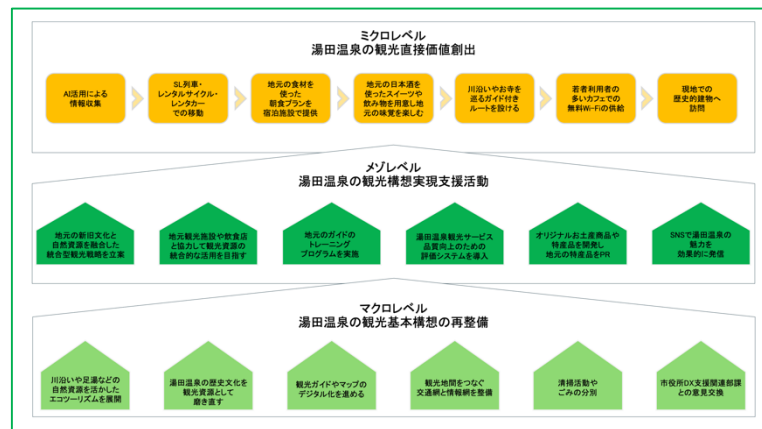
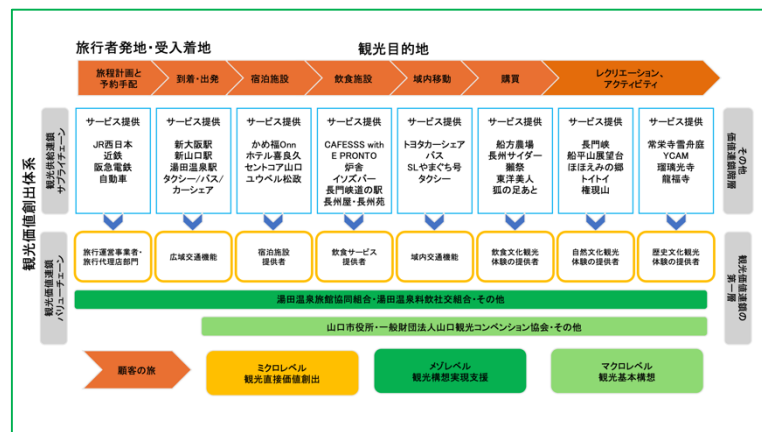
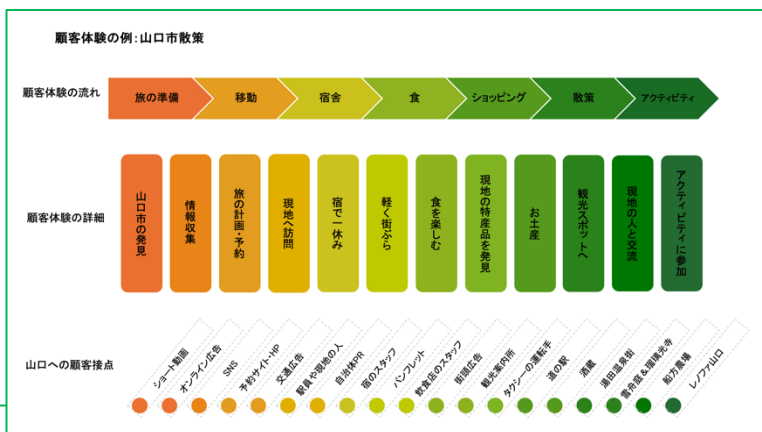
⑥山口県総合企画部
デジタル推進局と連携
Y-BASEイベント
「デジタルツインフォーラム」



⑦中山間地域/阿東地域
プチ移住・デジタルデトック
➢ 2022～2024プチ移住実験
➢ 阿東の自然豊かな環境は、感覚過敏のある子供が落ち着いて自己成長できる場所
➢ 都会の若者が自分を見つめ直せる場所



- Mr. Craig Modの推薦理由分析
- 「日本のB面」としての魅力再発見
- オルタナティブな都市体験や持続可能な観光モデル
- マスツーリズム・モデルの否定
- データ連携以前の事業活動連携の必要性
- 部分個別最適化ではなく総合的コーディネーションの必要性



生成 AI 技術と若い感性を融合させて山口市の魅力を再発見！

本件のポイント

- 学生が複数の生成 AI を駆使して NYT 誌が認めた山口市の魅力を客観的に分析・仮説立案
- 生成 AI 分析結果(仮説)を元に、実際に現地を訪問して地域の魅力を再版権する実学的取り組み
- 生成 AI 技術から導き出された仮説を鵜呑みにせず自らの実学的感性と融合させる新たな取り組み

本件の概要

山口市スマートシティ推進協議会オブザーバーの須原氏と、近畿大学経営学部・古殿研究室 10 期生が共同で実施する山口市の観光振興に関する調査・提言活動です。本活動では、古殿研究室 OB/OG による過去 2 年間の研究実績を基礎とし、複数の生成 AI(perplexity, Claude, ChatGPT)を活用した多角的調査を行いました。特筆すべき点は、2024 年にニューヨークタイムス誌で「世界で訪れるべき場所」の第 3 位に「なぜ山口市が選ばれたのか？」を、山口市を推薦した NYT 記者の山口に関する記事を生成 AI で分析し推薦理由を仮説化した上で、古殿研究室 10 期生が実際に山口を訪問し、関西在住学生の視点から現地調査を実施した上で、山口市の魅力を第三者的に再発見した事にあります。これらの調査結果に基づき、山口市の観光産業の更なる発展に向けた提言をまとめ、山口市スマートシティ推進協議会に報告書として提供します。学生は令和 6 年(2024 年)8 月に山口市を中山間部、山口都市核、湯田温泉、新山口駅(小郡)など、北から南の主要拠点を訪れ、豊かな文化と人々の温かさに直接触れて山口市の魅力を体感した上で、生成 AI が導き出した仮説を参考に、自分自身の感性に基づいて各自の提言を作成しました。



吉田松陰の「夢なき者に成功なし」



令和 6 年(2024 年)8 月の現地視察で日本庭園 常栄寺 雪舟庭を訪れ、
YCAM が坂本龍一氏と共に制作したデジタルネーチャー音源「Forest Symphony」を鑑賞。

近畿大学古殿研究室 10 期生山口レポート(その1):新本玲奈

訪問する前の山口の印象

私は山口県民(平生町)です。しかし山口市には、何にもない印象が非常に強い。主に、高校生の時に試合会場などでしか訪れることがなく、観光地として魅力的だとは感じていなかった。県庁所在地であり、山口大学が立地している行政・教育の中心地という印象が強かった。

しかし、実際に足を運んだ際には、豊かな緑に囲まれた心落ち着く故郷としての魅力を感じた。住んでいたわけではないが、試合で訪れた際には、地元の方々が温かく声をかけてくださり、地域の人々の優しさを実感した。

山口市は、平成の大合併後、面積が飛躍的に拡大した。そのため、正直なところ、市域の正確な範囲を把握するのが難しい。南北での発展の度合いに明らかな差があり、地域によって景観や雰囲気が大きく異なっていると感じている。

歴史的な魅力の一つとして、SL(蒸気機関車)が現在も走っていることが挙げられる。これは、地域の鉄道文化を象徴する貴重な存在である。一方で、人口流出は深刻な課題となっており、山口県全体が少子高齢化の問題に直面していることを実感している。

交通インフラに関しては、電車の本数が非常に少なく、路線も限定的である。車両数も少なく、山口県全域でワンマン運転が採用されているのが現状だ。この点から、明らかに車社会であることがわかる。道路に関しては、多くの総理大臣を輩出した歴史ある地域だけあって、非常に整備が行き届いており、走行性も高い。

広島県と比較すると、経済的な発展の規模に雲泥の差があることは否めない。しかし、山口市の最大の魅力は、人と人とのつながりの強さにあると感じている。地域コミュニティの結束力は、他の都市部と比較しても特筆すべき特徴であると考えている。

山口訪問体験の感想

2024 年 8 月 26 日

10:33 新山口駅到着

高校生時代と比較すると、駅の発展が感じられた。周辺は整備されていたものの、少し離れると従来の風景が広がっていた。駅構内の待合室は冷房設備がなく、暑さのため滞在が困難だった。電車の運行本数が少なく、各列車の間隔が長いので、暑い環境下で待ち時間が苦痛だった。

10:45 新山口駅北口開発計画の説明

道路は整備され、以前と比べて開発が進んでいることを実感した。しかし、立地条件や周辺環境を考えると、集客や利便性の面で課題が多いように感じられた。建設事業自体は評価できるものの、以下のような懸念点があった：

- 車がないと日常生活に支障をきたす（最寄りのスーパーまでの距離が遠い）
- 若者が魅力を感じる娯楽施設の不足
- 車の維持費が高く、若年層の生活が困難
- 大学までのアクセスが悪く、学生の長期滞在が難しい
- 高校生の部活動により、平日の集客が見込めない

11:38 湯田温泉駅到着

車窓からの景色は、のどかで落ち着いた雰囲気満ちていた。高校生の部活動の様子、地域住民の日常、キラキラと輝く川、青々とした葉々は、都会では決して目にすることのできない風景だった。1両編成の電車は珍しく、貴重な経験となった。小さな駅は典型的な地方の駅の雰囲気を醸し出しており、温泉街というよりは地域住民のための駅という印象が強かった。

12:15 CAFESSS with È PRONTO でかき氷を食べる

味と見た目の両面で非常においしいかき氷だった。写真映えする外観に惹かれ、何枚も写真を撮影した。来年の夏にも、ぜひ再訪したいと感じるほど印象に残る一品だった。

13:10 道の駅 長門峡＋長門峡

久しぶりに訪れた場所で、懐かしい思い出が蘇った。みずみずしくておいしいリンゴ、地元の人々が泳ぐ川、キラキラと輝く水面、木々の緑との美しいコントラストが印象的だった。冷たい水は、暑い日差しの中で心地よい解放感を与えてくれた。

14:00 船平山展望台

知名度の低い場所で、地元の人や地理に詳しい人でなければ訪れることは難しいだろう。運転技術がない人にとっては、アクセスが困難な場所だった。しかし、展望台からの眺めは絶景で、息をのむほど美しかった。

資料4 各委員からの提供資料
(2) 須原オブザーバー

14:15 (株)十種の郷+ほほえみの郷トイトイ

広大な倉庫群が印象的だった。稲の収穫期には金色に染まる景色が想像でき、その美しさを期待させるものだった。移動販売などのサービスにより、地方だけで完結する生活の自立性に驚きを感じた。

15:30 常栄寺雪舟庭

木の床を歩く独特の感覚が心地よかった。何もせず庭を眺める時間は、祖母の家の縁側でぼんやりと過ごした幼少期の記憶と重なった。一方で、YCAM Forest Symphony の意味や内容は理解できなかった。

16:30 お宿 Onn 湯田温泉チェックイン

宿泊施設は非常に清潔で、女性に人気のデザインだと感じた。和モダンな雰囲気特に印象的で、温泉施設も期待以上に快適だった。大きな鏡は写真撮影に適しており、再訪を強く望むほどの魅力的な宿だった。

18:40 長州屋湯田店

馴染みのある瓦そばを堪能した。いつも通りのおいしさで、期待通りの味わいだった。

20:00 狐の足あと

足湯と日本酒を楽しんだ。熱めの足湯で深くリラックスできた。屋内・屋外の両方に足湯があり、天候に左右されずに利用できる点が特に魅力的だった。ただし、場所を知らない人には見つけにくい印象があった。

21:30 ISO' SBA

洗練されたおしゃれな店舗で、料理の味と店内の雰囲気が非常に良かった。反面、初めて訪れる人には入りづらい雰囲気も感じられた。

2024 年 8 月 27 日

8:00 セントコア山口での朝食

今回のフィールドワークで最も印象に残った場所の一つ。地元の食材を使用した料理は、どれも格別においしかった。スタッフからのメッセージにも温かみを感じ、心が温まる朝食だった。

10:30 ウェルネスセンター中央

従来のイメージとは異なり、老人ホームというよりもフィットネスクラブのような印象を受けた。健康維持に特化した施設という感覚が強かった。

11:00 権現山 熊野神社

急な階段の登坂は体力を消耗した。縁結びにまつわる石碑や伝承は微笑ましかったが、縁切りに関するものは少し不気味な印象を受けた。地元にもこのような独特の神社があることに驚きを感じた。

資料4 各委員からの提供資料
(2) 須原オブザーバー

11:30 瑠璃光寺 五重塔、長州苑

改修工事のため、十分に建物や庭園を鑑賞できず、やや物足りなさを感じた。リンゴ風味のかき氷は美味しかったものの、リンゴの風味がさらに強ければより良かった。

12:10 龍福寺

ニューヨークタイムズゆかりの場所を見学でき、興味深かった。緑に囲まれたトンネルのような景色が印象的だった。帰り道、おばあちゃんが野良猫と戯れる姿が特に印象的だった。大内氏資料館では実際の遺物が展示されており、歴史への理解を深めることができた。ただし、自動ドアの閉まりが早く、挟まりそうになるなど、セキュリティ面での改善の余地を感じた。

12:40 山口市中央公園(スタバ)

広大な公園で、小さな子供たちが安全に遊べる環境だった。我々のグループでもピクニックやイベントに最適な場所だと感じた。

13:00 ウェルネスセンター中央

自分の地元にこのような総合的な施設があれば理想的だと感じた。多様なリハビリテーション方法に興味を持った。

13:30 山口大学

久しぶりに訪れた大学キャンパスは、以前より整備されていた。ただし、公共交通機関が不便で、車がないと移動が困難な環境だと感じた。

14:00 かめ福オンラインでミーティング

湯田温泉の開発について、地域住民と開発のバランスの難しさを実感した。特に以下の点が課題として浮き彫りになった：

- 駅から温泉街までのアクセスの悪さ
- 来訪者の交通手段(レンタカーや自家用車)の問題
- 地域の特性を活かしつつ、観光客を呼び込む方策

15:30 湯田温泉駅の足湯

地域の方々と交流する貴重な機会を得た。地域住民のエネルギーで前向きな姿勢に感銘を受けた。足湯の管理や運営に地域住民が深く関わっていることを肌で感じた。

訪問した後の山口の印象

(特に8月に訪問してから3カ月以上時間が経った今、何が思い出として残っているのか)

「のんびりする贅沢」ということと、ごはんの美味しさが非常に印象に残っている。大阪で過ごしていると、電車やバスに乗ってすぐにどこかに行けたり、大型商業施設に行けば何でも揃ったりと不便は一切なく、とても効率化された都市だと感じる。宅配サービスなどもスマホを使って問題なく使えるし、生活する上での不便はほとんど感じられない。

しかし、常に何かができる環境にいるということは、常に何かに急かされているようにも感じられる。選択肢があふれる中で、本当に自分がしたいことを選んでいるのか、それともただ選択肢の中から無理やり選ばされているだけなのか、不安になることがある。

今の自分の判断の仕方を振り返ると、正直なところ能動的というよりは受動的だと思う。たまたま目に入ったおすすめを深く考えずに受け入れ、そのまま流されているだけだ。このような状態を繰り返すうちに、本当に自分がやりたいことを見失ってしまうのではないかという不安が頭をよぎる。そこで強制的に不自由な場所に行くことで、のんびりすることの心地よさを知り、人々とのつながりを再認識する。少ない選択肢の中で本当に自分がやりたいことを見つけ、本当の意味で、自分で選択することができるのではないかと考えた。最終日に地元の人と話す機会があったが、都会では得ることのできない、ただ人と話す心地よさを体感した。

私自身、山口から大阪に上京してきて、最初のほうは便利さと充足感に満ち溢れていたが、やはり地元に帰ると時間の流れの緩やかさに一息つけるような感じがする。

地産地消の料理もそこに通じるものがあると思う。セントコア山口の朝食では手作りの温かさを感じることができて、ほっとした。きらびやかなイタリアンやフレンチも確かにおいしいが、その地方ならではの食材や料理を食べることで、食を通してこの土地の雰囲気や素朴な温かさをも感じることができるのではないかと感じた。

資料4 各委員からの提供資料
(2)須原オブザーバー

私がお勧めする1泊2日の山口訪問コース

【その1】大学のゼミ合宿旅行(夏想定)

1 日目

10:00 新山口駅集合

10:30 レンタカーを借りる

重源の郷(休園中・令和6年度末まで)で藍染や紙漉きなどの手作り体験教室を行
う

13:00 重源の郷で昼食

移動

16:00 チェックイン

16:30 食材買い出し

17:30 BBQ(木戸公園)

20:00 湯田温泉街を散策

22:00 宿泊

2 日目

9:30 朝食

移動(→きらら浜)

11:00 SUP 体験

移動(山口市中心商店街)

13:00 商店街の飲食店で昼食・散策

15:00 龍福寺

移動

16:00 レンタカー返却

16:30 帰宅

資料4 各委員からの提供資料
(2)須原オブザーバー

【その2】 デート1泊2日コース(12月想定)

1日目

10:00 新山口駅到着

10:30 レンタカーを借りる

徳佐まで移動

11:30 リンゴ狩り(昼食扱い)

移動

13:00 船方農場

移動

15:30 湯田温泉内にあるホテルにチェックイン

移動

16:00 山口市中央公園でクリスマスマーケット(架空)

移動

20:00 湯田温泉街で夕食

21:30 宿泊

2日目

9:00 ホテルで朝食

10:00 出発

移動

10:30 本多屋で山口外郎手作り体験

移動

12:00 まるまつ食堂(山口市黄金町 11-13)で昼食

移動

13:00 山口市中央商店街を散策

15:00 カフェ月明かり(山口市朝田 1077-3)で休憩

16:30 レンタカー返却

17:00 帰宅

近畿大学古殿研究室 10 期生山口レポート(その2): 岡山聡太

訪問する前の山口の印象

私は高校まで広島県に住んでおり、山口県に行ったことは何度もあった。しかし、錦帯橋や唐戸市場などの観光地についてはいくつか知っていたけど、広島で言う宮島のように、「山口と言えばこれ」という、全国的に有名な観光名所はこれといって無いというのが正直な印象であった。

山口訪問体験の感想

2024 年 8 月 18 日

10:33 新山口駅到着

新山口駅で降りたのは初めてのことであったが、想像よりも綺麗で大きな駅だなという印象を持った。

10:54 SL 山口を見送り

今回のフィールドワークで最も印象に残ったのが、SL 山口が出発する時の大きな音と迫力だった。周りに小学校低学年ほどの男の子たちが多くいて、それぐらいの男の子たちからしたら、とてもカッコいいと感じるだろうし、自分が幼い頃も SL のような列車が大好きだったなということを思い出した。

11:38 湯田温泉駅に到着

あまり温泉街だという雰囲気なくて、ファミレスなどもあり、観光地として発信していきたいのであれば、もっと温泉街一色というような雰囲気にすれば良いのではないかと思った。

14:35 船方農場(ソフトクリーム)

農場に来たのは幼稚園以来で、とても自然が豊かでリラックスできた。また緑の景色を見ながら食べるソフトクリームは、より美味しく感じられた。

16:12 SL 山口で津和野駅から湯田温泉駅

人生で一度は SL に乗ってみたいと思っていたのでとても嬉しく、自然豊かな景色を楽しみながら楽しんだ。

20:00 狐の足あと(足湯と日本酒飲み比べ)

私は温泉好きなのでとてもリフレッシュ出来て、旅の疲れが癒やされた。また温泉もお酒も好きな人からしたら、これ以上ない体験だろうなと思った。

2024 年 8 月 19 日

10:00 青藍会ウェルネスセンター

地元のプロサッカーチームの選手たちにサポートしてもらえる市民の人たちは嬉しいだろうし、市民の人たちは

資料4 各委員からの提供資料

(2) 須原オブザーバー

レノファ山口 FC を応援したくなるだろうなと思った。

15:00 山口市役所訪問

職員の人たちは市民の生活がより幸せになることを目指して仕事していることを実感した。

訪問した後の山口の印象

(特に8月に訪問してから3カ月以上時間が経った今、何が思い出として残っているのか)

瑠璃光寺や龍福寺、船方農場など隣県に長く住んでいた私でも知らない素晴らしい観光名所が多くあるんだなと思った。また、湯田温泉街を歩いてみての感想は、あまり温泉街だという雰囲気なくて、ファミレスなどもあり、観光地として発信していきたいのであれば、もっと温泉街一色というような雰囲気にすれば良いのではないかと思った。せっかく素晴らしい温泉があるのに少し勿体ないなと思ってしまった。

私がお勧めする1泊2日の山口訪問コース

【その1】(大学のゼミ合宿旅行) 夏

1 日目

9:00 新山口駅到着

11:30 長門峡で川遊び

14:30 津和野を訪問(安野光雅美術館)

16:00 SL 山口で津和野駅から湯田温泉駅

18:00 お宿 Onn に到着

19:00 お宿 Onn で夕食

20:30 狐の足あと

24:00 就寝

2 日目

8:00 セントコア山口で朝食

10:30 常栄寺雪舟庭

11:50 瑠璃光寺

12:30 昼食

14:00 龍福寺

15:30 新山口駅出発

17:30 新大阪駅到着

資料4 各委員からの提供資料
(2)須原オブザーバー

【その2】(デート1泊2日)冬

1日目

10:30 新山口駅到着

11:30 船方農場、昼食

14:30 津和野を訪問(安野光雅美術館)

16:00 SL 山口で津和野駅から湯田温泉駅

18:00 お宿 Onn に到着

19:00 お宿 Onn で夕食

20:30 狐の足あと

24:00 就寝

2日目

8:00 セントコア山口で朝食

10:00 湯田温泉街散策

12:00 昼食

13:30 YCAM

15:30 新山口駅出発

17:30 新大阪駅到着

近畿大学古殿研究室 10 期生山口レポート(その3): 菅沼有星

訪問する前の山口の印象

正直に言うと、山口県といえば「フグ」と「日本酒」のイメージしかなかった。特に山口市よりも、下関市や宇部市、角島といった県西部の観光スポットが有名だと感じていた。また、九州出身であるため、山口県は「九州・山口」と一括りにされる印象が強く、中国地方では少し仲間外れのように思えることもあった。

しかし、山口県には著名な政治家や偉人が数多くいることに気づいた。例えば、政治家では安倍晋三、伊藤博文、山縣有朋、桂太郎、岸信介、佐藤栄作など、多くの総理大臣経験者がいる。さらに、ファーストリテイリング創業者の柳井正や、幕末の志士である高杉晋作、思想家の吉田松陰、詩人の金子みすゞなど、日本に貢献した偉人も数多く輩出している。言わば、山口県は「観光地」ではなく、「人材の宝庫」と言える。

このように、山口県は観光スポットだけでなく、現在の日本の礎を築いた偉人たちを輩出してきた県であると感じている。

山口訪問体験の感想

実は、古殿ゼミで山口・湯田温泉のプロジェクトに関わるまで、山口に温泉街があることを知らなかった。実際に足を運んでみると、そこは「温泉街？」とクエスチョンマークが頭に浮かぶほど、一般的な温泉街の雰囲気とは異なっていた。私が想像する温泉街は、有馬温泉や草津温泉、銀山温泉など、特定の「レトロな世界観」が形成されている場所である。これらの温泉街は、その世界観によって多くの観光客を惹きつけている。

しかし、湯田温泉にはそのような世界観はなく、地方都市の中に温泉が湧き出ているという印象を受けた。正直、温泉街を訪れてこのような感覚を持ったのは初めてであった。ただ、湯田温泉を観光して気づいたことがある。それは、温泉以外の観光資源が豊富であるという点である。特に、足湯は湯田温泉の最大の魅力だと感じた。一般的な温泉街と比較して、湯田温泉には公共の足湯場が多く存在している。

さらに、足湯と山口の名産品である日本酒を掛け合わせた「狐の足あと」は素晴らしい観光スポットである。温泉で日本酒を飲むという光景はよくあるが、手軽に楽しめるものではない。しかし、足湯であれば素足になるだけで簡単に楽しめる。施設内は薄暗い照明で、木材を基調とした作りになっており、木の香りを楽しめる空間であった。また、足湯に浸かりながら、山口の日本酒やフグの骨せんべいを楽しめる点も魅力的である。ドラマチックな雰囲気があり、カップルにもおすすめだと感じた。このような観光資源は他の温泉街には見られないため、湯田温泉にとって大きな武器になるだろう。

さらに、初めて SL 機関車に乗ることもできた。新山口駅から島根県の津和野駅まで、約 2 時間の旅であった。現代において SL に乗る経験は貴重であり、これも山口市にとって大きな観光資源であると感じた。ただし、単に

資料4 各委員からの提供資料

(2) 須原オブザーバー

SL に乗るだけではインパクトに欠けるため、「SL で過ごす 2 時間の山口ランチ」のような付加価値をつける工夫が必要ではないかと考えた。

まとめると、山口市には観光資源があるものの、その活用方法には工夫が足りず、インパクトが弱いと感じた。

訪問した後の山口の印象

(特に8月に訪問してから3カ月以上時間が経った今、何が思い出として残っているのか)

先ほども述べたが、山口には観光資源が豊富であるものの、プロモーションの仕方が弱いと感じる。街全体として、観光客が「行きたい」と思えるような街づくりが必要である。特に湯田温泉街は、温泉街としての雰囲気を感じられない。もし、他の温泉街との差別化を図るために、あえて雰囲気を重視していないのであれば、それでも良い。しかし、その場合は、観光客の動線となる場所に山口の観光資源を体験できる施設や店を設置すべきである。

正直、湯田温泉に詳しい人がいなければ、どこに行けば良いのかわからなかった。観光地において観光客の動線作りは重要である。また、湯田温泉には足湯が多く、整備も行き届いており、素晴らしい観光資源だと感じた。しかし、足湯がただ街にあるだけでは不十分である。例えば、自動販売機を設置したり、オリジナルの湯田温泉饅頭を作って販売したりすることで、観光体験の充実が図れるのではないだろうか。私の直感ではあるが、足湯にはビジネスチャンスがあると感じた。

一貫して言えるのは、湯田温泉は従来の温泉街とは異なる観光地になる可能性を秘めているということである。湯田温泉の最大の魅力は、温泉以外の観光資源にある。有馬温泉や草津温泉、銀山温泉などでは、温泉とその土地の特産品を同時に楽しめる場所は意外に少ない。山口は日本酒が有名であり、日本酒と温泉の組み合わせは最高のマッチングではないだろうか。「ながら温泉」を楽しめる温泉街として、湯田温泉には成長してほしいと思う。

最後に、最も印象に残っているのは「狐の足あと」である。足湯に浸かりながら、獺祭などの日本酒を飲んだ体験は忘れられない。

資料4 各委員からの提供資料

(2) 須原オブザーバー

私がお勧めする1泊2日の山口訪問コース

【その1】「大学でのゼミ合宿旅行」:

1 日目

新山口駅到着→NIKU HOUSE でお昼ご飯→電車に乗って湯田温泉街へ→ゆう太の前で記念撮影→ホテル「お宿 Onn 湯田温泉」に到着→湯田温泉街で各々足湯を堪能・温泉街散策→山口の郷土料理や特産品を楽しむお店でディナー→「狐の足あと」→ホテルに戻る

2 日目

ホテルで朝食→レンタカーを借りる→常栄寺で雪舟庭園に浸る→瑠璃光寺訪問→龍福寺→新山口駅解散

【その2】「カレカノのプチ山口デート」:

1 日目

石見空港到着→電車で津和野駅まで行く→津和野駅周辺でランチ・津和野の街を散策→湯田温泉街へ→湯田温泉ユウベルホテル松政→フグ料理堪能→狐の足あとで日本酒と足湯堪能→夜の湯田温泉街ぶらり→ホテルへ

2 日目

ホテル松政で朝食→瑠璃光寺へ→菜香亭で着物体験→八坂神社→龍福寺→菜香亭で着物返却→新山口駅へ

訪問する前の山口の印象

私が山口県を訪問する前は、正直なところ「本州西端の静かな県」という程度の印象しか持っていませんでした。大阪・茨木市出身の私にとって、山口は新幹線で通り過ぎるイメージでした。また、湯田温泉についても「温泉地がある」とは聞いたことがありましたが、具体的な特色や観光資源についてはほとんど知識がありませんでした。訪問前は、静かでのんびりとした温泉街に少し訪れ、美味しい郷土料理を楽しむくらいの期待値でいたのです。

山口訪問体験の感想

到着・出発:

8 月の朝、新大阪駅から新山口駅まで新幹線で移動し、その後、広域交通機能を活用して SL 列車にも初めて乗り、独特の音や雰囲気思わずテンションが上がった。レンタカーで湯田温泉へ向かう道中、普段見慣れない景色が広がり、遠足気分が高まった。

宿泊施設:

湯田温泉の旅館「喜楽久」にチェックイン。施設内は清潔で、温泉はほぼ貸切状態。夕食後にもう一度温泉に入ると、昼間とは違う静かな空気感が楽しめた。気兼ねなく入れるお風呂があるだけで、旅全体がかなりリラックスできるものになった。

飲食施設:

到着日の昼食は、駅前エリアの「CAFESSS with PRONTO」で軽食をとった。地元食材を使ったサンドイッチや地ビールは思いのほかおしゃれで、都会のカフェとは違った落ち着きがあった。翌朝の和食膳も地元の食材が味わえて、1 泊 2 日でも「ここでしか食べられないもの」を楽しめたのは良かった。

域内移動:

午後はレンタカーで歴史的建物や文化資源のあるエリアへ行き、須原さんという地元ガイドに案内をお願いした。須原さんの説明はわかりやすく、普段ならスルーしてしまうような建物や地域の背景にも目が行くようになった。移動中に観光地っぽい看板や風景が増え、「自分たちが普段暮らしている環境との違い」を肌で感じられた。

購買:

帰り際、「狐の足あと」というお店で地元の菓子や長州サイダーを購入してみた。実際に現地で手に入れたお土産は、あとで家で食べたり飲んだりして思い出を振り返るのにちょうどいい。旅の流れの中で、そうした「持ち帰れる地域の味」を見つけられたのは収穫だった。

レクリエーション・アクティビティ:

歴史や文化にふれる観光スポットを回った後、夜は旅館近くの足湯で一休み。そこへ日本酒を持ち込んでゼミ仲

資料4 各委員からの提供資料

(2) 須原オブザーバー

間と軽く乾杯したり、気ままに話したりするうちに、「ただの観光地」ではなく「実際に人が暮らしている空間」を感じられたのが印象的だった。都会のカフェや居酒屋にはない、のんびりした雰囲気が心地よかった。

全体として、1泊2日と短いながらも、移動・宿泊・食事・体験・お土産購入といった一連の流れがスムーズで、それぞれの要素がうまくつながっていた。特に SL 乗車や足湯でのんびり談笑する体験など、日常では得られない「ちょっと特別な時間」があったのが良い思い出になった。地方創生というテーマでも、実際に現地で感じた空気や人の暮らしが、今後の学びにつながりそうだ。

訪問した後の山口の印象

(特に8月に訪問してから3カ月以上時間が経った今、何が思い出として残っているのか)

8月の訪問から3ヶ月以上が経過した今、最も強く印象に残っているのは「温泉街の居心地の良さ」と「地元の人々との距離の近さ」です。豪華絢爛な観光地というよりは、生活と観光が程よく調和した穏やかな雰囲気が、記憶にやわらかな余韻として残っています。また、地域特産品である萩焼の器やローカルフード(長州サイダーやふぐの加工品)など、実際に手に取ったり味わったりしたモノが私の中で「山口」のイメージを支えています。結果として、訪問前の曖昧な認識から、「暮らしと観光が共存する温泉地」としての具体的なイメージを持つようになりました。

私がお勧めする1泊2日の山口訪問コース

【その1】大学のゼミ合宿旅行コース(学生同士の交流や学習効果を高めるプラン)

1日目

出発・到着:朝に新大阪駅から新幹線で新山口駅へ。新山口駅では訪問者向けの案内所や荷物一時預かりサービスがあると便利。そこからタクシーまたはバスで湯田温泉へ移動。

昼食:湯田温泉街の食堂で郷土料理や地元食材を使った定食を味わう。もし「地図やおすすめ店情報」が駅や旅館で手に入れば、迷わず良店を選べる。

活動 1(地域文化体験):萩焼の絵付け体験や地元サイダー(長州サイダー)の試飲ワークショップなど、短時間で地域特産品の背景に触れられるプログラムを用意。ゼミ生同士で作品を見せ合うと、学外のフィールドワークとして楽しさも増す。

宿泊:ホテル喜良久やゆうべに松政など、学生でも負担が少ない価格帯かつ清潔で Wi-Fi 環境が整った宿。可能ならゼミ合宿向けの和室や会議室があれば、夜に小規模なディスカッションも可能。

夕食:地元居酒屋で季節の魚や山口特産食材を楽しむ。

2日目

朝風呂・朝食:朝は温泉でリフレッシュし、地元食材の朝ごはんを味わう。地産地消のパンやヨーグルトがあると、学生にも食べやすい。

活動 2(自然・歴史ツアー):タクシーやワゴンで長門峡や SL やまぐち号周辺へ足を延ばし、歴史的背景のある景勝地で写真撮影・フィールドノートづくり。専門ガイドを手配すれば、地方創生のヒントとなる情報収集がしやすい。

資料4 各委員からの提供資料

(2) 須原オブザーバー

お土産購入：新山口駅に戻る前に、狐の足あとなどの施設で地元土産をゲット。萩焼の小皿や特産品のお菓子が、家族や友人へのお土産に最適。

帰路：夕方までに新山口駅から新大阪駅へ戻る。荷物を預けられるサービスや、学生割引プランなどがあると、全体の旅程がよりスムーズに。

【その2】カップルのプチデート泊旅行コース

1 日目

出発・到着：午前中に新大阪駅を出発し、昼前に新山口駅へ。そこから湯田温泉へタクシーで直行。もし荷物預かりカウンターが駅や旅館にあれば、観光前に荷物を気軽に預けられる。

チェックイン前散策：かめ福 Onn などの旅館にチェックインする前に、湯田温泉街を散歩。CAFESS S with PRONTO で軽食やスイーツを楽しみながら、街角に設置された足湯でちょっとひと息。

チェックイン・温泉タイム：午後、旅館にチェックイン。部屋でゆっくりした後は温泉で疲れを癒しながら、夜のプランを相談。二人で過ごせる貸切風呂や地元ワインの用意があれば、特別感が増す。

夕食・夜の散策：旅館内のレストランで地元食材のディナーを堪能し、食後はライトアップされた温泉街を散策。情緒あふれる街灯りや夜の足湯スポットがロマンチック。周辺にフォトスポットの看板があれば、SNS 映えする写真も簡単に撮れる。

2 日目

朝食・温泉：朝は地元食材たっぷりの和朝食を堪能。二度目の温泉で身も心もリフレッシュ。

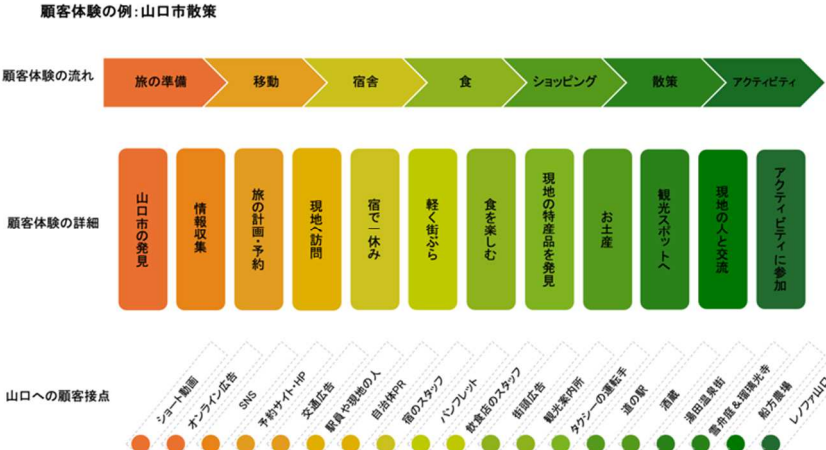
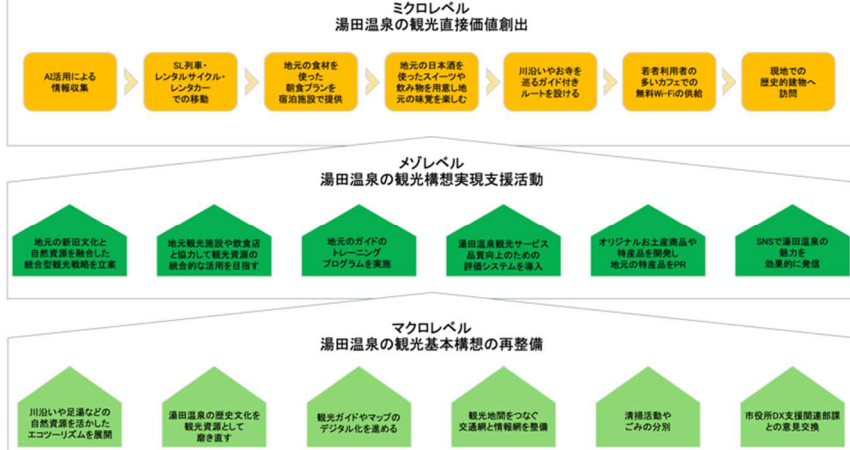
日帰りツアー参加：バスツアーやタクシープランで、長門方面や萩方面の絶景スポット（海岸線や歴史的建造物巡り）へ。短時間で複数の名所を回るプランがあれば、初めての山口訪問でも効率良く楽しめる。

お土産とランチ：湯田温泉に戻ってから、萩焼のカップや地元和菓子をお土産に購入。昼食は軽めの麺類やテイクアウトできる寿司・おにぎりなど、「旅の最後に食べたい気軽なローカルフード」があれば、気兼ねなく楽しめる。

帰路：午後早めに新山口駅から新大阪駅へ戻る。駅や車内で地域観光マップを見返し、「次回はもう少し長く滞在したい」という気持ちを自然と抱くような、充実した時間。

資料4

(2) 須原オブザーバー



山口市スマートシティに向けた視点

2024年12月24日

三菱総合研究所
主席研究員 松田 智生

1. **スマートシティ**は手段であって**目的**ではない
2. **主語は市民**であって、スマートシティやデジタルやハイテクが主語ではない
3. 一部の識者が理解できる街づくりではなく、**全ての市民が理解できる**こと
4. 若年層・子育て層・高齢者層の**多世代にメリット**があること
5. 一部の事業者へのメリットだけでなく、**地域に雇用×税収を創出**すること